

第41回 西三河地区神社関係者大会

西三河地区連絡協議会（西尾幡豆支部杉浦澄雄会長）では、7月4日、西尾市文化会館大ホールにおいて第41回西三河地区神社関係者大会が西尾幡豆支部当番にて1104名の参加のもと開催されました。

次第冒頭の清興では、県指定の無形民俗文化財である「田貫の棒の手」が披露され、引き続き、神社功労者表彰として長年に亘り神社の護持運営に努められた31名の方々が表彰の栄に浴されました。



西三河地区連絡協議会



田貫の棒の手



神社功労者表彰



愛知県神社庁長挨拶

式典では杉浦会長が、周りを見渡すと必ずしも問題がないわけではないが、それでも神社を中心として日本文化が発展していることは平和の一助となっている。心の拠所としての神社がより発展されることを期する旨を述べられました。また来賓として愛知県神社庁長、副庁長並びに愛知県神社総代会副会長ほか、神政連愛知県本部会長、地元選出の国会議員、県会議員、市会議議長など多くの方々の列席を仰ぎました。



西尾市文化会館大ホール

なお、議事では、英霊の顕彰とともに、醇風美俗の道統を次代に伝えるための活動に邁進する旨の大会宣言を全会一致で採択し、その後の記念講演では、ジャーナリストの井上和彦氏により「封印された日本の近現代史」と題する講演をいただきました。その中で氏は、イデオロギーで歴史を語るのではなく、事実をもとにした客観視が必要であることを強調され、殊に大東亜戦争前夜から戦後にかけての、タイ・インド・フィリピン等の参加国と日本との関係から、この戦争が決して侵略戦争ではなく、東アジア独立のための独立戦争であったことを詳細に説明されました。最後に聖寿の萬歳を三唱し大会を閉式しました。